

平成22年度 第1回三条市こども未来委員会会議録（概要）	
日 時	平成22年7月7日（水）10時00分～11時50分
会 場	市役所栄庁舎3階 大会議室
出席者	<p>検討委員：橘委員長、佐久間副委員長、佐藤委員、小林（吾）委員、藤坂委員、齋藤委員、古川委員、荒木委員、近藤委員、高橋委員、藤田委員、小林（尚）委員</p> <p>欠席委員：田中委員</p> <p>事務局：古川教育部長、久住子育て支援課長、蝶名林課長補佐、五十嵐係長、知野主任 阿部指導主事</p> <p>報道機関：なし 傍聴者：なし</p>
委 員 会 内 容	
蝶名林補佐	<p>これから平成22年度第1回三条市こども未来委員会を開催する。 三条市こども未来委員会委員の委嘱を行う。</p> <p>【古川教育部長から委嘱状交付後、教育部長よりあいさつ】</p>
古川部長	<p>こども未来委員会は、子どもの未来を作る委員会である。 「過去の因を知らんと欲せば現在の果を見よ。未来の果を知らんと欲せば現在の因を見よ。」という仏教のことわざがある。子どもの未来を作るということは、現在の原因を作る、いわば種をまくこと。将来をどのようにしていこうかということ、大人が子どものために真剣に考え、その手を打っていく。そこに、この委員会の大きな意味があると考えている。未来は、私たちと子どもたちの心の中にある。今、私たちが出来ることは何か。この審議会の意義は大きい。皆さんのお知恵を拝借したい。よろしく願いたい。</p>
蝶名林補佐	<p>これから会議に入るが、正副委員長の選任まで事務局で進行する。</p> <p>【会議資料の確認、差替資料の確認】</p> <p>本日の出席者数について、13名中12名の委員から出席いただいている。</p> <p>【委員及び事務局 自己紹介】</p> <p>【委員長、副委員長の選任】</p> <p>三条市こども未来委員会要綱第5条に、委員の互選により委員長・副委員長を置くことになっている。委員長の選任についてどうしたらよいか。</p>
藤坂委員	事務局で腹案があれば、願いたい。
古川部長	前回の当委員会でも委員長を務めていただいた橘委員にお引き受けいただ

	きたい。
	【拍手により全員承認】
蝶名林補佐	では、橘委員に委員長をお願いし、以降の進行をお願いしたい。
	【委員長あいさつ】
橘委員長	昔から「子どもは宝」と言われる。我々がもっている財産を文化として子どもに伝える、子どもの力を育てる、というのは大人の責任だと思う。次の世代に夢を託せるのも子ども。子どもを大事にする仕事をやっていきたい。そういう意味で、この会を有意義な会議にしていきたい。「こんなことを言ってもいいのだろうか」などと思わずに、積極的な発言をお願いしたい。貴重な時間なので、皆様の御協力をよろしくお願いしたい。
	まずは、副委員長の選任について、どうしたらよいか。
	しばらくして無いようだが、事務局の腹案はいかがか。
古川部長	幼児教育について幅広い知見があり、実践者である佐久間委員が適任かと思うが、いかがか。
	【拍手により全員承認】
橘委員長	では、佐久間委員に副委員長をお願いしたい。
	【副委員長あいさつ】
佐久間副委員長	委員というだけでも責任ある仕事だと思っていたが、副委員長という重責を仰せつかった。不慣れではあるが、皆様の御協力により任務を全うしたい。
橘委員長	では、議題に入りたい。 議題（１）三条市こども未来委員会の概要について、（２）すまいる子どもプラン（三条市次世代育成支援行動計画）について、事務局より説明願いたい。
久住課長	【久住課長から議題(1)、(2)について説明】
橘委員長	今の説明について、質疑があればお願いしたい。

藤田委員	<p>新規・拡充というのは、これから5年間でやっていくのか。継続事業というのは、既にやっているものなのか。P38の放課後活動の促進とかP42の地域全体で子育てを支える仕組みづくりとかいうものは、期待されるところであるが、まだ具体的なものではないのか。</p>
久住課長	<p>放課後子ども教室は、現在も何か校かで実施中であるが、それをもっと拡げていく、充実させていくということで、『拡充』と載せた。</p> <p>『子育て』というと、『小さい子どもへの支援』というイメージがあるが、これからは、児童、青少年への支援の充実が問われてくると考えている。</p>
齋藤委員	<p>「ハッピー子育てプロジェクト」は、小さい子どもを対象とした内容であると思われる。</p> <p>小学校では、いろいろな問題が出てくるが、結論から言えば、親の問題、家庭のあり方、家庭の教育力を高めていかないと、学校だけでは解決できない。保護者を対象とした家庭教育講演会などで啓発していきたいが、一番聞いて欲しい人は出てこない。難しいが、学童期以降の家庭教育が大切になってきている。</p>
久住課長	<p>子どもの自己肯定感や生きる力などの根本的な部分を育てるのは幼児期であり、幼児期に一番しっかりやるのが重要と考えている。その後、子どもの成長に伴い、思春期の困り感が出てくる時の支援を充実させていきたい。</p> <p>家庭教育では、プレパパ・プレママの妊娠期から、保育所、小学校就学前の健康診断の時間を利用して講座を開催している。市内統一テーマで実施し、昨年から中学校でも、学校説明会の日に開催している。実施時間等を工夫し、できる限り多くの保護者に聞いてもらうようにしている。</p>
佐藤委員	<p>今までの関わりの中で感じていることだが、児童虐待やいじめが増加傾向にある。中学に入って虐待を受けた子どもは、周りの子どもたちに与える影響が大きい。他の学校の子どもと一緒にあって、いじめをしたりしている。学校の対応は、その子どもたちを分離することだけ。こういう対応だけでいいのか、疑問がある。</p> <p>家庭環境・地域環境が変化し、家庭教育力・地域教育力がなくなった。</p>
橘委員長	<p>子どもの問題は、社会全体の縮図である。挙げていくとキリがないので、また今度の機会に討論したい。</p> <p>事務局から、その他ないか。</p>
久住課長	<p>次回、すまいる子どもプランの実施計画をお示しし、具体的な説明をしたい。8月27日（金）午前10時からということではいかがか。</p> <p>【委員 異議なし】</p>

橘委員長	では、8月27日（金）午前10時からということをお願いしたい。 それから、このファイルについての説明をお願いしたい。
古川部長	先程の説明の中に出てきた『すまいるファイル』と『支援者用マニュアル』を配布した。マニュアルの中に、考え方や子ども・若者育成支援推進法の法令も載っているので、御覧いただきたい。
久住課長	この『すまいるファイル』は、昨年9月に作成し、出生児に配布している。また、希望者にも配布し、子どもの成長の記録用にしてもらっている。そのお子様が支援が必要になった時に、すぐ支援につなげていけるようなファイルになっていて、どんな支援が必要なのかということも書けるようになっている。
橘委員長	とてもよく出来ていると思う。記録上のトラブルや御意見などはないか。
久住課長	トラブルなどは特にない。 このファイルは、昨年9月から年度末の3月までで、1,500冊を配布している。保育所や健診会場などでチラシを配布し、希望者を募っている。
橘委員長	親御さんの感想をぜひ聞きたい。評価をきちんとしていけるといいと思う。
古川部長	利用者の意見も聞きながら、バージョンアップしていきたい。
久住課長	モニターから意見を聞くなどして、内容を点検していきたい。
橘委員長	では、これで第1回会議を終わりたい。ありがとうございました。 （11時50分 終了）